https://www.zoukeimoriage.com/

造形教育をもりあげる会
会長：武田晴信
編集責任：宮川友二朗
moriage123@gmail.com
2024.09.11 第７１号

「第６８回造形教育をもりあげる会研究大会」を終えて

造形教育をもりあげる会会長　武田　晴信

強烈な暑さの中、第６８回造形教育をもりあげる会研究大会を無事に終えることができました。これも会員の皆様、関係各位の皆様のご協力とご支援によるものと考えております。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

今大会より活動テーマを「造形活動って　楽しい！　おもしろい！　ここちよい！」としました。まず造形活動の基本はこの「楽しい！おもしろい！ここちよい！」ととらえています。子ども達の中にも先生方の中にも「絵を描くことは苦手」「ものを作ることは苦手」と思っている人もいます。今回、実践を紹介してくれた方々の活動はどれも「楽しい！おもしろい！ここちよい！」ものばかりでした。先生方がわくわくドキドキするものばかりでした。分科会の中には子ども達がやったものを体験するものもいくつかありました。またワークショップでも参加者の皆さんが目を輝かせて作ったり、遊んだりしていました。

朝の受付の後にコースターに自分の顔を描いて木の葉にして大きな木に貼るところから始まりました。会場の掲示物もこの１年間の月例会の様子の成果を展示しました。分科会の進め方も参加してくれた方が楽しく関わってもらえるような進め方を心がけました。

今回の参加者は１００名を少し超えました。コロナ前は約２００名の参加者がありました。提案分科会も今の倍の１６分科会ありました。特にコロナ以降は研究会がリモートで行われたりして研究会そのものが減りました。また先生方の多忙化で休みの日に交通費や参加費を払って参加する人も減ったようです。さらに YouTube が浸透して実技研修を個人で YouTube を見て行う人も増えたのではないでしょうか。それを考えるとやる気のある方々がたくさん参加してくれたものと思っています。

そして今回は久しぶりに講演会を開きました。講師は前文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官で現東京家政大学家政学部造形表現科教授の岡田京子先生です。先生には今回のテーマと幼児教育と小学校・中学校の造形活動の関わりについてご講演をして頂きました。これまで調査官として全国の学校を回った時の写真や現家政大学の資料や写真を通してとても分かりやすくお話して頂きました。私は造形活動が誰かの役に立つと言うお話がとても印象的でした。人数は以前よりも少なくなってきてはいますが、岡田先生は、この時期こんなにたくさんの方が参加していることに驚かれていました。私は先生のお話でたくさんの勇気と元気な心をもらったように思いました。

今回は会場の都合で９月になりました。来年はまだ会場が取れていませんが、第６９回を目指していこうと思っています。月例会も充実させてたくさんの方々に参加してもらおうと考えています。今年参加してくれた方は是非来年はどなたかを誘ってきてくれると嬉しいです。来年また会いましょう。

第６８回造形教育をもりあげる会研究大会の概要

受付を通って名札を付けたら、最初のコーナーは「みんなでアート」今回は、コースターに自分の顔を描いて、大きな木に貼り付けていきました。

全体会ではあいさつと活動テーマの説明。その後、８つの分科会の実践紹介者に、発表内容の紹介と PR をしてもらいました。

分科会は、午前中に４、午後に４、全部で８分科会が行われました。発表や質疑応答に加え、体験や小グループでの語り合いなど、多様な形での分科会進行となりました。

ワークショップは、４つのコーナーが設けられ、どのコーナーも盛況で、みなさん思い思いに造形を楽しんでいました。

最後は、岡田京子先生の講演会で締めくくられました。幼稚園保育園はもちろん、小学校教育でも楽しい造形活動により子どもは育つ。そして、子どもを丸ごと見守る先生の姿勢が大事だと。

https://www.zoukeimoriage.com/

造形教育をもりあげる会
会長：武田晴信
編集責任：宮川友二朗
moriage123@gmail.com
2024.09.13 第７２号

研究大会参加者の感想

〇小学校の ipad を使った図工の授業のお話が聞けておもしろかったです。幼稚園でも子どもたちと、遊びの中で一緒にやってみたいと思います。参加された先生方といろいろお話ができて楽しい時間となりました。　（３０代　幼稚園）

〇たくさんのお話を聞き、子どもが“楽しい”と感じることを第一に考え、製作をしたり遊びを広げてみたりすることが大切だと思いました。「見て～！」と言われたときに、忙しくても「なに？」と、子どもの声に耳を傾け一緒に楽しむことで信頼関係ができてくると感じました。　（２０代　幼稚園）

〇様々な報告を聞くことで、今後の保育へ生かしたいと思うことがたくさんありました。ワークショップで体験できたことも楽しかったです。（２０代　保育園）

〇今年も、造形の奥深さと身近なものである（難しく考えずに）、そして、生きていく上でとても重要であるということを改めて感じました。
岡田先生のお話、大変心に入ってきました。先生と同じことを私もいつも考えていました。先生のような方と同じことを考えていたということに驚き、感動しました。　（４０代　保育園）

〇午前の分科会で“ゆめの樹保育園ほどがや”さんのお話を聞かせていただいたのですが、今まさに自分の園でも変えようとしているところで、先に進んだ状態を見ること、知ることができました。自分たちが今少しずつ変えられているところ、進むべき方向が、他の園でも取り組んでいて、それが“素敵な保育”と感じられることができ、「これでいいのか？」と悩んでいたものが少しすっきりしました。自信になり、パワーをもらうことができ、参加してよかったと感じました。また、やはり保育は奥が深いなと、様々なお話を通して、子どもの姿・保育を共有することの楽しさ・喜び・嬉しさを改めて感じられることができました。　（２０代　保育園）

〇６８回続いていることがすごいし、未来につながる提案がされている感じがしました。講演の大学の先生のお話は　とても適切でためになりました。確かに、子どものためにすること、子どもの考えを大切にすること、幼稚園で育てたものを生かす小学校教育をしたいと思いました。自分でやってみて、子どもの心（たのしい　ここちよい）を大切に考えていきたいです。　（６０代　小学校）

いつもの定例会とは違って、規模が大きく、いろいろな分科会があって楽しめました。他の幼稚園の先生との関わりもでき、お話も聞けたので、その幼稚園の作品展を見に行きたいと思いました。　（５０代　幼稚園）

「楽しい　おもしろい　ここちよい」の分かりやすいテーマがいいですね。岡田先生の講演にあった「うまくにじんでいるね」と言える先生のように私もなりたいと思いました。　（６０代　小学校）

今回初めての参加だったのですが、様々な園の取り組みを知ることができたり、実際に体験をすることができたりしたので、楽しく学ぶことができました。今回学んだことを自身の園に持ち帰り生かしていきたいと思います。
（２０代　幼稚園）

分科会を聞いて、新しい発見や学びが多く、とても楽しかったです。ワークショップでは、多くの先生方の作品から「こんな考え方もあるんだ」「こうやって使うんだ」と、刺激がたくさんありました。　（２０代　幼稚園）

今回初めて参加しましたが、貴重なお話を聞くことができて有意義な時間でした。実際に現場で活かしたい事例がたくさんあったので、自分の保育に繋げていけたらと思います。
（２０代　幼稚園）

会場を押さえ、事例の依頼等の準備をしていただき、ありがとうございました。支援の立場、小学校教師等、様々な立場から一つのことに意見を出し合える素敵な場でした。午前中は第１分科会に参加しました。恵まれた保育ができるようで羨ましく感じました。素材から感じることを写真や保護者のコメントを織り交ぜた作品を通して子ども理解を深めていることが素晴らしいと思いました。午後は、第６分科会に参加しました。幼稚園での日常の生活の中でも、個人差が大きいのでなかなか一人ひとり丁寧に見ることは難しいのですが、支援級の図工から細かい観点で見ることができるのに感銘を受けました。人と比べることなく楽しめる造形活動がいかに幼児の発達に必要なものであることを改めて感じました。　（５０代　幼稚園）

https://www.zoukeimoriage.com/

造形教育をもりあげる会
会長：武田晴信
編集責任：宮川友二朗
moriage123@gmail.com
2024.09.15 第７３号

研究大会参加者の感想　Ⅱ

〇分科会のお話も興味深いものが多く、聞けなかった分科会やもっと知りたいと思うことがあり、刺激になりました。造形教育の大切さをもっと多くの人に伝えたいと思いました。子どもとの対話・活動はとても楽しいです。　（４０代　幼稚園）

〇実践できるものや小学校の指導も見ることができ、大変勉強になりました。他の方の発想を見たり、講演の先生のお話を聞けたりして、とても刺激になりました。　（４０代　幼稚園）

〇病院の保育園で働いており、０歳から小学生まで、１００人を超える人数の子どもたちを見ています。友人や娘も他の園で保育士として働いており、他の研修会で話を聞いても、本日の会に参加させていただいても、本当に今働いている園が、古臭いというか、昔の流れをかなりひきずっているなと感じました。子どもたちを思う気持ちは皆一緒なのに、本当に楽しいのかな？楽しんでいるのかな？と、ハッとさせられることばかりでした。この思いを持ち帰り、園で少しずつ変えていけたらなと思います。子どもの成長を責任をもって保育し、感じられる、楽しめる製作遊びができたら・・・と強く思っています。貴重なお話をありがとうございました。素敵な出会いもあり感謝申し上げます。　（５０代　保育園）

〇分科会では第４分科会に参加させていただきました。ICT の技術を使って、図工だけではなく、音楽をつくったりすることもできたりと、教科を超えた学習につながると感じました。卒業生へのメッセージや保護者へのメッセージなどにも動画で表現することができるなど、時代に合わせて気持ちを伝えることができる技術を学べることがすごいと思います。岡田先生のお話、本当に身にしみます。日頃の子どもへの声掛け、自分が教育者の立場として、子どもたちにどう声をかけ、どう接しているのかを改めて考えさせられました。　（４０代　小学校）

〇造形について様々な園や学校の話を聞いたり、ワークショップを体験したりして、一言で表せない深さを感じました。どの子にとっても、前向きに楽しく取り組めるものであり、答えのない多様性を発揮できるものであると思いました。　（２０代　幼稚園）

〇久しぶりの【研修】という場に参加させていただきました。造形活動のおもしろさ・楽しさ・ここちよさを改めて実感することができました。分科会・ワークショップ・講演会と盛りだくさんの内容で、参加型の研修で楽しく学ぶことができました。ほかにも聞きたかったのですが、各一つずつで少し残念な気もしました。でも、改めて、子どもの表現する力や楽しさを味わうことができたので、明日からの子どもの保育のヒントになりました。　（４０代　幼稚園）

〇久しぶりに参加させていただきましたが、とても勉強になることが多くありました。造形って、いつもどんなことをやるか悩み、もりあげなければ・・・、うまくつくらせなければ・・・と、考えすぎてしまうことが多くあります。私自身も図工が苦手だったこともあり、保育者としてどう展開させていくか悩んでしまいます。分科会や講演会でいろいろなお話を聞かせていただく中で、子どもの発信を大切にすること、大人の評価はつけないなど、子どもが主体となって楽しむことが大切だと気付きました。保育ウェブやドキュメンテーションなども活用していき、よりよい造形活動に向けて励んでいきたいと思いました。

（３０代　幼稚園）

〇分科会での発表を聞き、他園での実践を知ることができておもしろかったです。参考にもなり、自園や自分の保育を振り返る機会ともなりました。

※９月に入ってからの研修会は、日々の保育の忙しさを考えると（行事に向けて忙しくなるので）難しいです。できれば、８月（夏休み中）がうれしいです。　（３０代　保育園）

〇今回、初めて参加させていただきました。大変学びの多い時間となりました。保育園の分科会に参加しましたが、子どもの興味関心からの広がりが保育の中に生きていて、子どもの「おもしろい」「わくわく」を見逃さない先生方のまなざしを強く感じました。日頃からの大人の学びがこどもを見る目とつながり、生活からつながる活動になっていくことを感じました。生活のおもしろさや暮らしを作る共同性が、造形活動に伸び伸びと表現されていく様子がよくわかる発表でした。その時々の子どもの様子と先生方の思いが重なっていく言葉に胸が熱くなるほどです。ありがとうございました。　（HP 掲示板より）

〇たくさんの学びのある時間となりました。造形活動は楽しい面白い心地よい、まさに私もそう思いながら日々の授業に取り組んでいます。たくさんの子どもたちにそう思ってほしい。目の前の子どもたちが何を楽しい面白い心地よいと感じるのか、どのように問いかけたら、のってくるのか、どんな仕掛けをしたら、のめり込んでくるのか、真剣になるのか、日々格闘しています。上手くいったときの子どものキラキラした表情、真剣な眼差し、深いつぶやき、そんなものに出会える感動が私のご褒美になります。

（HP 掲示板より）

〇今回、初めて参加させていただきました。大変学びの多い時間となりました。幼稚園保育園、小学校とも積極的な造形教育をされていました。子どもたちのドキドキワクワクを見逃さない先生たちの熱い気持ちを強く感じました。ワークショップでは楽しく夢中になるような活動でした。参考になりました。ありがとうございました。　（HP 掲示板より）

〇実践報告をさせていただき、実行委員の先生方や参加者の皆様とお話させていただくことができて嬉しかったです。ワークショップや参加させていただいた分科会では、作る過程や子どもたちの作品を囲む場面で、自然と参加者の方々同士での対話が生まれた場面に感動しました。「正解」や「ねばならない」ではなく、楽しさや面白さ、心地良さをベースにした造形活動そのものが持つ魅力や力を感じることができて良かったです。岡田先生のご講演では、私自身も大切だと感じている幼保小の繋がり（「〇〇ができないと小学校で困る」といったような話ではなく、より本質的で根源的な部分）についてのお話を伺うことができ、造形教育のコンセプトがより広く教育・保育現場の中に浸透していったら良いなぁと感じました。私にとって安心できる実家のような場になっています。　（HP 掲示板より）

https://www.zoukeimoriage.com/

造形教育をもりあげる会
会長：武田晴信
編集責任：宮川友二朗
moriage123@gmail.com
2024.09.18 第７４号

実践紹介の分科会の様子をお知らせします

第１分科会　「法人の考えるアートの取り組み」

ゆめの樹保育園ほどがや　佐々木真由美・日下部玲奈

「やりたい気持ち」が出発点！

造形が苦手なのは？
「上手につくらなきゃ」
「下手だから（つい周りの自分を比べてしまう）」
ここには、作品主義や大人の視点の価値観が存在

⇩

子ども主義

園の考えるアート（造形活動）の取り組みを子どもたちの日々の造形活動を通して、丁寧に紹介していました。

子ども主義の造形活動は、様々な素材を使った造形遊びをもとに、子どもたちが「楽しい」「やりたい」から始まる活動で、何かをつくるとか、形に残すことが目的ではなく、子どもたちの活動そのものを大切にし、その過程で感じたことがすべての学びになり、心や体の成長発達につながると考えられていました。

したがって、子ども主義の造形活動は、形に残らないことも多く、子どもの活動したプロセスを大切にしているので、保育ウェブを活用して、子どもたち一人一人の活動の軌跡を残していく（それらをすべて子どもの作品と考える）とのことでした。

大変わかりやすく、分科会参加者が共感できる発表だったので、その後の話し合いでは、多くの感想や意見が出され、より具体的に園の取り組みが見えてきました。

「年間を通してどのくらいの素材に触れているのか？」「保育ウェブの活用はどのようにしているのか？」「保護者に子どもたちの活動を理解してもらうための取り組みは？」・・・など、活発な話し合いとなりました。

ファシリテーター：　山口　理絵
記　録　　：　池田　たか子

第２分科会

「アートカードで遊ぼう」

川崎市立小杉小学校　小澤　朋子

小学校１年生で、教科書の指導書についてきているアートカードを使った活動です。

１年生がアートカードと出会って何ができるのだろう？

アートカードのどんなところに興味を持つのだろう？

今回の実践では、いろいろなアートカードを見て、感じたこと、気が付いたことを自由に伝え合う中から、それらの言葉でカードの読み札をつくることへと発展していきました。

この読み札を使って、アートかるた遊びをしました。

誰かが自分の読み札を読んだら、「せーの」でグループのみんながその読み札に合うと思うカードを指さします。そのカードを選んだ理由を話したり、読み札をつくった子が「これのことでした」と、その子の正解を発表したりして遊びます。正解は、あくまでもその子の正解で、みんなが違うカードを選んでも、それぞれの見方や感じ方があることに気が付けば OK です。

低・中・高学年と、それぞれの指導書にアートカードはついてきていますが、なかなかそれが活用されていないのが現状のようです。アートカードを使った活動をもっと広めて、いろいろな表現に出会う機会をつくってあげることが大切。

大人は、アート作品を見ると、作者の意図や何を表そうとしているのかなど考えてしまうが、子どもは遊び感覚で、それぞれの子の目線で感じ取ればいいのではないでしょうか？そこには正解はありませんから。

分科会の後半では、参加者でグループをつくって、実際にアートカードを使って遊んでみました。

自分の好きなカードを選んで、３つのヒントでどれを選んだのか当ててもらいます。例えば「動物がいます」「みんなうれしそうです」「懐かしい感じがします」・・・

「さてどれでしょう？」「せーの！」で指さします。あたっても、違っていてもかまいません。そこから、作品の見方や感じ方の話が広がれば素晴らしい体験になります。

他にも、「お話づくり」や「神経衰弱ゲーム」など、アートカードを使った楽しい遊び方を創り出していくことができます。学年に応じていろいろ考えてみると面白そうですね。

ファシリテーター：　田口　雅之

記　録　　：　紺野　清美

https://www.zoukeimoriage.com/

造形教育をもりあげる会
会長：武田晴信
編集責任：宮川友二朗
moriage123@gmail.com
2024.09.22 第７５号

第３分科会

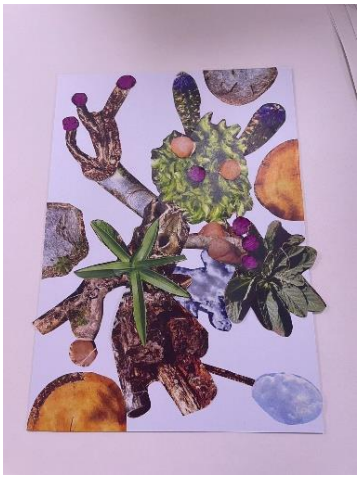
「コラー獣」づくりを通して見られる混ざり合いの軌跡

切貼民話師　　平山　雄大

「コラー獣」？？？
街を歩いて見つけた不思議なものを撮影して、それをコラージュして創る「創作幻獣」です。
「切貼民話」とは
　混ぜ合わせる面白さ。民話や妖怪は、その土地や環境、文化、人々の生活などが混ざり合って生まれ、変容しながら伝わり存在し続けている。そこに、コラージュという技法を掛け合わせることで、既存の意味を超えた、見立てや想像、解釈、表現が生まれることを期待しています。

　埼玉県坂戸市で行ったワークショップの様子を紹介しながら、「コラー獣」作りの実際の活動がどのようなものかを画像を通して解説。
　１枚の写真から、いろいろな見立てが始まる。
「怪獣が目を開けて、口を大きく開けているみたいだ」
「ムーミンが日本に移住してきたのかな」
「一角獣のように見える」
「逆さにして見ると、見え方が変わりそうだ」・・・
　分科会の参加者も大きく映し出された画像を見て、様々な見え方感じ方を口にしていました。
　ワークショップを行うと、そこに参加した人たちの見方やとらえ方が混ざり合って、参加者同士の表現がお互いの表現に伝わり広がっていくおもしろさがあります。

　分科会の後半では、参加者が小グループになっての話し合いの場もあり、ワークショップに参加している雰囲気で、お互いの見方やとらえ方を交流することもできました。



ファシリテーター：　山下　佳香
記　録　　：　大嵜　整子

第４分科会

「iPAD を使ったワクワク授業」

横浜市立藤が丘小学校　松浦　雅昭

アプリを活用して、iPAD で様々な表現を試みていく活動です。

学校にあるいろいろな葉っぱを見つけてきます。葉っぱを並べたり重ねたりしながら自分だけのおもしろい生き物をつくりだしていきます。作り出した葉っぱの生き物を写真に撮り、「フリーボード」というアプリを使って、いろいろな画像に重ねたり吹き出しを付けたりして、楽しい「ハッパッパワールド」ができ上がってきました。

この活動の中で、子どもたちは楽しみながら葉の色や形への新しい気づきが生まれてきます。アプリを生かした活動をすることで、子どもたちは、自分の表現したいことに合わせて自由に表現に時間を使うことができ、個別最適な学びの姿が見られます。また、友達と画像を共有するなど学びあいが自然と生まれ、協働的な学びにもつながります。

他にも、カメラアプリの切り抜き機能を使って、自分や友達を切り抜き、学校内のいろいろなものや場所の画像にはめ込んでいくと、小さくなった自分が学校内を自由に探検できます。「ミニミニさんのスクールライフ」

「ビスケット」というアプリを使うと、ホログラムや万華鏡づくりが簡単にできます。このように、アプリを活用することで、子どもたちがいろいろな表現を知り、自分の感覚で自分なりの表現に生かしていくことができます。いろいろな可能性があるので、学年の発達段階に応じて、活用していくことが考えられます。

分科会の後半では、実際にアプリを活用して、その表現を体験してみましょうということで、「ビスケット」を使った万華鏡づくりにみんなで挑戦してみました。

松浦さんの周りに集まって、その場で扱い方を見せてもらいながら、それぞれが自分の表現に夢中になって楽しんでいました。

他のアプリを使った表現もいろいろ教えてもらいながら、実際に体験してみると、その面白さに次第にはまってきて、いろいろな質問や感想が飛び交いながら和気あいあいと進んでいきました。

実に面白い！！

ファシリテーター：　中島　恵那

記　録　　：　細野　小百合

https://www.zoukeimoriage.com/

造形教育をもりあげる会
会長：武田晴信
編集責任：宮川友二朗
moriage123@gmail.com
2024.09.25 第７６号

第５分科会

「生活から拡がる造形」

～お芋掘りから生まれた子どもたちの表現活動と拡がり～

白梅いずみ保育園　　小林　朋美

＜なぜ、お芋掘りが題材となったのか？＞

昨年の秋、天候の関係かお芋が例年になく大きく、数もたくさんあって豊作でした。園児たちは大きなお芋を掘り上げ、楽しくお芋掘りの活動を行うことができました。

とても楽しくできたお芋掘りの活動を何か他の形でも楽しめないかと考えてみました。

掘っても掘ってもなかなか掘り起こせないお芋を一生懸命掘り出した喜び。その体験から子どもたちが感じたことをそのまま表現できたらと考えて、お芋掘りをした時と同じ青空の下で絵具を使って表現活動をしてみました。

園庭に段ボールを敷き、その上に広げた模造紙に一人一人がお芋をのびのびと描き始めました。それぞれが描いていたお芋が、次第につながり始め、どんどん大きなお芋になっていきます。子どもたちは大きく大きく塗っていくことに楽しさを見つけ、みんなでやる表現へと広がっていきました。そんな様子を見ていた年少の子たちも興味津々。あっという間に筆で紙一面の塗りたくりが始まりました。

保育園や幼稚園の発表を聞いている方は、他の園がどんな取り組みをしているのか、どんな考え方で子どもたちの活動を見取っているか、ということに強く関心があるようで、途中途中の質疑応答でも、このお芋掘りの活動を通して、園全体の取り組む姿勢などについての意見交換が多かったようです。

ファシリテーター：　吉濱　優子
記　録　　：　畠山　陽子

第６分科会

「季節の飾りをつくろう」

～支援級におけるねらいを細分化した造形活動～

川崎市立東生田小学校　大高　修

小学校の特別支援級の造形活動の実践紹介です。特別支援級には１年生から６年生まで全学年の児童が在籍していて、全学年で取り組んだ活動です。

発達段階や障害の程度に応じて、個別にねらいを設定し、個に応じた支援を細やかに行なっていった実践です。

活動によって、できることやできないこと、どんな支援が必要かなど、活動を進める中でのねらいや具体的な支援の設定が必要になってきます。

実際の活動の取り組みの様子を紹介した後、個に応じた支援や一つ一つのつくる過程における個別のねらいの設定の実態を理解してもらうために、子どもたちと同じ活動を体験してみました。

実際につくってみると、いろいろと気が付くことや質問してみたいことがたくさん出てきます。

「ハサミで切るのが難しいなと感じました。丸く切るときには紙を回して切るように指導すると思いますが、支援級の子はどうですか？」

『紙を回しながら切るのも難しいし、線の通り切るのも難しい子もいます。』

「花びらを付ける活動で、ノリで手が汚れるのを嫌がる子はいませんか？」

『嫌がる子には無理にやらせません。やり方は教えますが、その通りでなくてもいいので、少しずつ経験する中でステップアップしていけばいいと思います。』

できるだけシンプルな作業で飽きないような活動を選んでいるとか、立体の方が作業工程が多いので楽しみながらできるなど、一人一人の実態に合わせて支援ができるような活動を考えているとの話もありました。

実際に活動しながら話を進めたので、他にもいろいろな意見や感想が次々と出てきて、大変もりあがった話し合いとなりました。

ファシリテーター：　武田　晴信

記　録　　：　池田　たか子

https://www.zoukeimoriage.com/

造形教育をもりあげる会
会長：武田晴信
編集責任：宮川友二朗
moriage123@gmail.com
2024.10.03 第７７号

第７分科会

「こどもの小さな発見や挑戦に光をあてる」

鶴見大学短期大学部附属　三松幼稚園
安藤ちせ子　甲斐愛美菜　成田実弥

初めに、園での子どもたちの生活や活動の様子が紹介されました。

先生たちは、子どもたちの日々の生活や遊びの中から生まれる子どもたちのおもしろい活動や一人一人の気づき、小さな発見を大切にし、それを保育者がしっかり見て気づいていくことを日々行なっていました。

楽しかったことや自分で気が付いたことなどを絵に表すとのびのびと表現します。自分が好きなことや興味を持ったことをやりたいだけやれる環境をつくってあげます。子どもたちが活動したことや行為の足跡なども作品として大切にします。子どもたちと一緒に楽しみながら温かく見守っていく先生方のまなざしがたくさん発表されました。

分科会の後半は、三松幼稚園が用意した活動している子どもたちの写真をもとに、グループになって語り合いました。たくさんの写真の中から、子どもたちの表情やしぐさなどをもとに好きな写真を選び、それをきっかけにして、子どもたちの姿や気持ちを楽しく語り合うことができました。

「この子の表情は、何か学んでいるな。探求しているな。」
「好きなことをしているから表情が生き生きしているな。」
語り合う中で、いろいろな子どもの姿が見えてきます。子どもたちと一緒に遊ぶ中で、子どもに付き合い認めていくことの大切さも語られました。

「保育って楽しい！」
参加したみなさん共通の感想です。

ファシリテーター：　鮫島　良一
記　録　　：　萩原　由美

第８分科会

「心のもよう」（５年生）

相模原市立共和小学校　福岡　美奈子

小学校の高学年になると、他者との違いに気づき、比べたりしがちになり苦手意識が生まれてきます。「うまくできないよ」という気持ちを受け止めつつ、描くこと表すことの楽しさを感じさせ、苦手意識を払拭していければと思います。

この活動は、アートカードから好きなカードを選んで読み札をつくり、それをもとにかるた遊びを行います。読み札をつくる活動を通して、自分なりの見方や感じたことを自分の言葉で表すことができました。また、かるた遊びを通して、友だちと自分の見方や感じ方の違いを知り、いろいろな見方や感じ方があることに気づいていきます。

次に、正方形の画用紙に、クレヨンや絵の具を使って、好きなように描いていく「心のもよう」づくりをしました。具体的なものを描くのではなく、線や形、色や濃淡などを生かして思いのままに自分なりのもようを描いていきました。

この自分がつくった心のもように言葉を添えて、自分たちの作品でかるた遊びをしました。いろいろな友だちの表現やその思いなどを知り、それぞれの良さを感じることができた活動となりました。

実際に子どもたちがつくったカードを一人一人画用紙に張り付けた作品をたくさん持参してくれたので、分科会の後半は、机の上に並んだたくさんの子どもたちの作品を見ながら意見交換や感想交流をしました。

子どもたちの実際の作品を見て、子どもたちの表現への思いがより伝わってきました。話し合いも目の前にある子どもの表現を通した具体的な話題が多く出ました。授業者は、子どもたちの語彙力のなさを心配していたが、参加者からは、表現から子どもたちの思いが溢れているから問題ないのでは・・・と。

授業者の言葉で、「子どもたちの表現を見ていると、活動を仕組んだ私の想像を超えてきているのを感じ、それが図工の醍醐味なのかなと思いました。」と。

この活動は、一人一人が自分の世界をつくれ、いろいろな技法が自然発生的に出てきている。一人一人の良さを先生が引き出し、主体的な子どもを育てることにつながっている素敵な実践でした。

ファシリテーター：　藤田　博己
記　録　　：　府川　汐里

https://www.zoukeimoriage.com/

造形教育をもりあげる会
会長：武田晴信
編集責任：宮川友二朗
moriage123@gmail.com
2024.10.10 第７８号

大会に参加してくださったアドバイザーの天形先生から分科会の感想ともりあげる会への貴重なご意見ご示唆をいただきましたので、そのまま紹介させてもらいます。

第１分科会(A-1)「0～5 歳児 造形遊び」“ゆめの樹保育園ほどがや”の発表によせて

「やりたい気持ちが出発点」という“ゆめの樹保育園ほどがや”のキーワードに惹かれ参加しました。

発表内容は期待をはるかに超えるものでした。特に、学習活動や授業には「生きる力」と「その土台」がある、というところに強く共感させられました。

これから長い人生を生きようとする幼児たちに「その土台」となるものを育てることが「造形」の役割である。そして、「その土台」が育つには、まず「やりたい気持ちが出発点」という研究発表の視点にとても説得力があると思いました。

感覚遊びや空間、見立て、行為遊びなどの経験を通して学ぶ(*learning*)様子に指導者としての教育的視点が感じられます。五感の刺激をしようと自然との関わりも大切にしているようです。

「造形」とは、子どもの発達を知る貴重な機会です。彼らの作品や行為を評価する「思いや想い、生き生き、喜び、など」の所見は具体性に乏しく、学びの成果を示すには充分ではないということでしょう。子どもたちが、造形活動を通して発達の刺激を受けたり、「生きる力の土台」となる個々の資質や能力を高めたりする「ねらいや指導」の視点が明確に示されているのではないでしょうか。

「学びって何？」それは、まず、やりたい気持ち (好奇心や関心) を起こさせること。そして、多くの経験(感覚的、材料的、技術的)をさせることが、教育(*education*)と学習(*learning*)の原点である。と、教育実践を通して示されたのだと思います。

21 世紀を生きる子どもたちが必要とする「生きる力の土台」を“ゆめの樹保育園ほどがや”の発表内容から、私なりにイメージできたのは次の６項目でした。

① 仲間とともに造形や生活を楽しむ能力
②いろいろなモノから見立てて遊ぶ能力
③素材の柔らかいや硬いを感じ分け、造形遊びでその性質を活用できる能力
④遊びからお話が生まれ、誰かに伝えようとする能力
⑤こんなものも遊びになるんだということを発見する能力
⑥平面や立体、構造などの空間を想像したり、考えたりする能力

発表内容に対し、このような見方をするのは、半世紀にわたる私の造形教育経験によるものです。50 年に及ぶ私自身の経験値がそうさせているようです。

私は、初任の頃からまもなく『造形教育をもりあげる会』に参加するようになりました。
それ以来「なぜ、図工や美術を学ぶのか？」を問い続けてきた半世紀だったように思います。初代会長の小関先生や諸先輩方から多くの示唆やご教示、そして、新たな教育的視点をいただきました。

「なぜ、図工や美術を学ぶのか？」への問いは、未だ追求半ばではありますが、『造形教育をもりあ

げる会』と諸先輩方に感謝の意を込めて、現在進行形「造形教育に関する指導と評価の視点」として、私見を以下にまとめてみました。

幼児や児童が行う造形活動には、次の①②のような二つの学習的意味が内包されていると考えています。

①は、造形的な表現活動を経験しながら表現力を高め、造形表現の世界に親しむこと、

②は、造形的な学習を経験しながら、幼児、児童が本来有している資質や能力を引き出し、
現代社会を生きるために必要と思われる「生きる力」を身につけること、です。

①は、子どもたちが成長するための学習方法として最適な「造形」を好きになり、いつも、いつまでも造形活動に親しみ、造形的な文化社会の一員として豊かに生きるためにはとても大切なことです。ですが、子どもの多くが成長したのちに、美術やデザイン界で働いたり、趣味としたりするための学習では必ずしもないのです。造形的な表現力や技能の上達をめざすのは「やりたい気持ちが出発点」だからなのです。

むしろ、「造形」を通した「生きる力の土台」の学習機会は②の方にあると考えられます。

子どもたちの造形活動を企画し、指導と評価を行う教員は、①とともに②の教育的な視点を大切にして、造形的な表現活動や子ども集団の中で育ちつつある個々の資質や能力を評価することにこそ意味があると考えています。

それは、『造形教育をもりあげる会』を神奈川の地に創設した当初の目的でもあったのではないでしょうか。

（尚絅学院大学 客員教授 天形健）

相模原市の小中学校の作品展の紹介です

第４４回造形「さがみ風っ子展」

１０月２５日（金）・２６日（土）・２７日（日）１０：００～１６：００

【緑区会場】城山公園・もみじホール城山

【中央区会場】GLP アルファリンク相模原

【南区会場】女子美術大学・女子日アートミュージアム

各会場の様子や会場へのアクセスなど詳しい情報は
造形「さがみ風っ子展」ホームページから確認できます

各会場とも、ゆったりとしたスペースに、子どもたちの作品が工夫して展示されており、子どもたちの生き生きとした表現がより豊かに感じられます。

屋外スペースを活用した作品展示もあり、広々としたスペースと青空の下の環境を生かした表現も楽しむことができます。

https://www.zoukeimoriage.com/

造形教育をもりあげる会
会長：武田晴信
編集責任：宮川友二朗
moriage123@gmail.com
2024.10.24 第７９号

１１月月例会の報告

＜運営会議＞

第６９期の運営及び大会に向けて、前回話し合いの続きと確認を行いました。
皆様にもお知らせした方がいい案件について以下に記載します。

〇第６９期役員について

役員任期は３年のため、役員（会長・副会長・会計）人事について確認しました。役員の改選について運営委員で話し合った結果、会長・副会長については全員もう１年継続していくこととなりました。

会計については、現会計に加えて、もう一人選出し、２名体制で行くことになりました。

＜新たな役員構成＞

会長：武田晴信　副会長：増田ツヤ子・森本壽子・宮川友二朗　会計：本間幸子・山口理絵

会員の皆さんには、この報告をもって承認していただいたことにさせてもらいます。

〇月例会の予定

１１月：１１月１６日（土）９：３０～１２：００（研修会は１０：３０～）
向原幼稚園　研修会予定しています（内容未定）

１２月：１２月２１日（土）９：３０～１２：００（研修会は１０：３０～）
ほどがや地区センター　研修会：「牛乳パックから生まれる、生まれる」

１月：１月１８日（土）９：３０～１２：００（研修会は１０：３０～）
鎌倉女子大学幼稚部　研修会予定しています（内容未定）

２月：２月１５日（土）　時間・会場未定

３月：３月１５日（土）研修会予定しています（内容未定）
ゆめの樹保育園ほどがや　研修会予定しています（内容未定）

〇「第６９回造形教育をもりあげる会研究大会」について

日程：２０２５年７月２６日（土）予定

会場：これまでの「横浜ワールドポーターズ」内の会場が使用できない可能性が大きいので、
現在、横浜市周辺で新たな会場を検討中です。

参加費：これまで通り、３０００円（学生１０００円）

分科会：８分科会を予定
同一会場で２分科会が交代で発表し、参加者は午前と午後で４つの実践発表を聞くことができる案も検討中

講演：今回の岡田先生のお話が大変好評でした。次期大会でも、素敵なお話が聞けるよう講師の方を選定し講演を依頼

（文責：宮川　友二朗）

「わくわく研修会」の報告

鎌倉女子大学幼稚部を会場にして、「木っ端を使った造形活動」を行いました。以前にも、空き箱、トイレットペーパーの芯など、様々な形の身辺材を使った研修会が行われて、とっても楽しい経験をしたのですが、今回は、「木っ端」という一つの材料での研修会です。果たしてどんな楽しい造形活動になるのだろうと、皆さん、わくわくした気持ちで集まってこられました。

まずは、みんなでかわいい動物のカードを一枚引くと、リス、コアラ、パンダ、の３つのチームが出来上がりました！どうやら、チームで協力して活動していくようです。

「１０分間の間に、どんな積み方でもいいので、木っ端を高く積み上げてみましょう。時間は１０分です。どのチームが一番高く積めるでしょう。スタート！」

「スタート！」の声と同時に、どのように積み上げようかの相談をすることもなく、どのチームも、素早く木っ端を手に取っては、必死に積み上げていきます！　やりながら積み方の話し合いは自然に始まります。ぐちゃぐちゃでも何でもいいから、とにかく木っ端を固めて積み上げていくチーム。一つずつ、バランスを考えながら、丁寧に、丁寧に積み上げていくチーム。急ぐあまり、途中で、木っ端が崩れて、「キャー！」と叫ぶチーム。など、会場は、大盛り上がりとなっていきました！！

結果は、丁寧に積み上げたチームが優勝！となったのですが、「木っ端をぎゅっと固めるように積み上げたチームの出来上がりが、まるで「サクラダ、ファミリア」（？）の塔みたいで、素敵なアートだな。」「途中で崩れたチームは、時間ギリギリで、一本の高い木っ端を積み上げるなどしていたので、楽しいアイデだな。」など、それぞれに個性があり、とても面白いなと思いました。木っ端一つの活動で、こんなにも、わくわくし、面白い、楽しいを味わえるんだということを、改めて感じたひとときでした。

次は、木っ端を、とにかく長く長くつなげていく活動です。隣のチームとぶつかると、そこを工夫して立体的に乗り越え、つないでいく楽しさを感じながら、とにかく、どんどんつなげていきました。結果、会場内には、とても面白い、木っ端の道路のようなものが出来上がりました！

「子どもだったら、これを見て、どんなことを始めますかね。みんな、子どもの気持ちになって動いてみましょうか。」すると、その上を歩きだす人、木っ端を蹴ったり、長い木っ端をバラバラにしたりする人などが現れ、みんな思い思いに楽しみ始めました。果たして、こんな時、子ども達だったら、どんな活動を始めるのでしょう。自分の園でもぜひ、行ってみたいなと思いました。こういう自由さが、木っ端という材料のよさですね。

最後は、好きな木っ端を３つ選んでと言われ、何をするのだろうと、ドキドキして待っていると、真ん中にケースが置かれ、それぞれの位置から、その中に投げ込むという活動でした。１回目では、大きな木っ端を選んだ人は、なかなか入りにくく、小さめで重みがあると、入りやすいなどの経験をし、２回目には、入りやすそうな木っ端を考えて選びました。うまく入ると、みんなで、無邪気に喜び合いました！

最後に「この活動で子どもは、①何を楽しいと感じるのだろう。②何が育っていくのだろう。③木っ端を使って、他にどんな活動ができるだろう。」との問いかけがあり、各自でカードに書き終わると、そのつど、思ったことを自由に発表しあうということをして、みんなで学びあいました。

活動テーマの「造形活動は、楽しい！おもしろい！ここちよい！」を具現化し、体験できた研修会でした。　　（森本壽子）

https://www.zoukeimoriage.com/

造形教育をもりあげる会
会長：武田晴信
編集責任：宮川友二朗
moriage123@gmail.com
2024.10.26 第８０号

１０月「わくわく研修会（木っ端で遊ぼう）」参加者の感想

〇「木っ端」でどのような遊びができるのだろうか？と、最初は疑問だったが、予想以上に面白く驚いた。大人でも夢中になって遊べたので、子ど　もならばどれだけ喜んで遊ぶだろうか？想像しただけでワクワクする。ぜひ幼稚部でやってみたい。
楽しさの秘密は、①競い合うこと　②協力すること　③考えること・工夫すること　なのではないだろうか？このような面白い造形遊びを教えていただき、今日は本当に有意義だった。ありがとうございました。

〇木片が身近にあれば、まず自由に使って触れたりしながら遊びます。それから今日のような活動に入ると並べたり積み上げたり、友だちと力を合わせてできるかと思います。この活動を通して何を育てるのかを考えるのが大事だと思います。遊び方はいろいろ考えられるので、子どもたちと考えながらいろいろと発展させて進めていきたいと思います。ドミノ倒しやピタゴラスイッチ、さらに発展して、くぎ打ちなどしながらの木片遊び・・・。奥深い遊びだと思います。

〇木片で様々な遊びを夢中でできてとても楽しめました。自由にのびのび活動することで、楽しみながら社会性が身につき、他にもいろいろな力が身につくので、ぜひ子どもたちと楽しんで行おうと思います。
　また、様々な年齢で行えるので、預かり保育や運動会の行事、保護者とのふれ合い活動などでも楽しむことができると思いました。
〇今度３年生の図工の授業でのこぎりを使う題材があるので、その参考になりました。木の教材をのこぎりで思い思いに切らせた後、ボンドや釘を使って好きな形に組み立てていくのですが、組み立てる活動の前に、今日のような遊びをやってみようかと思いました。

〇今日は参加させていただきありがとうございました。先生方と一緒に、ひたすら一つのことに取り組むことができ、子どもの心に戻ることができました。そこで、それぞれのアイデアや考え方、ものの見方に触れることができ、とても良い刺激になり学びにつながりました。活動を通して人と触れ合い、力を合わせ、考えて新たな発見につながるなど、原点に戻れたような気がします。

〇「木っ端で遊ぼう！」とても楽しかったです。高く積み上げるとき、どんどん積み上げる人がいるから、私は、木っ端を運ぶ人になって、他の人の様子を見ながら活動していきました。木っ端つなげていくときは、協力してやっていたのに、「あれ？一人でやっている人がいる！」まあ、いっかと、もう一人の人とちまちま木っ端をつなげていきました。人との関わり方って難しいけど、ほかのグループの人ともくっついたり、競争したりと・・・。思えば楽しかったです。今日も楽しい研修でした。

○“木”が大好きなので、ワクワクして千葉県我孫子市より来ました。木っ端は本当に形が様々で、見て楽しい、触れて楽しい、匂いも良し・・・で、それだけでも、子どもの五感にはビシビシと感じると思います。ただ、高く積む、並べる、投げるだけの簡単な動きなのに、楽しめた気持ちや、育まれる力はいろいろだなと改めて感じました。大人もこれだけ楽しめるので、子どもたちはもちろん、保護者にもぜひ体験してもらいたいと思います。保護者交流会などで、ぜひ！実践したいです。童心に帰ってもらいたい。

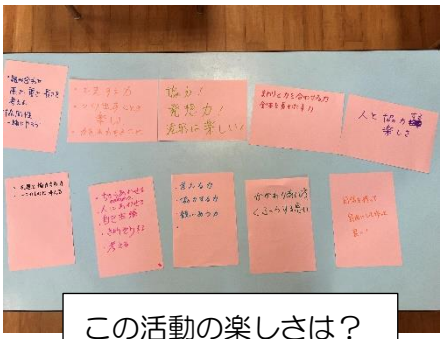
○造形遊びは、だれでもできることが一番の魅力です。今回のも、だれでもできるところが楽しくてよかったです。現在小学校では、一人一台タブレットが配当されているので、鑑賞の時間に、積んだ木っ端や並んでいるところから、お気に入りのところを写真に撮って、画像をもとに気に入った理由などを話し合ったりする活動もひらめきました。気を使って、のこぎりで切ったりくぎ打ちをしたりする活動もあるので、その前に今日のような活動をやりたいなと思いました。

○自由に発想をしたりつくったりすることが、とまどうことなく活動したくなる木っ端の遊びでした。様々な遊びが次々と出てきて、造形遊びのもととなる大切な学びとなりました。このような研修会をまたお願いします。

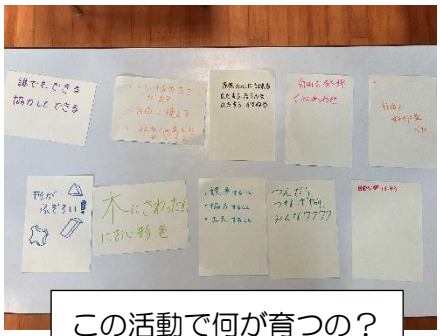
○とっても楽しい研修会でした。やっていると心が晴れ晴れしてきます。こんな活動を学校でもたくさんしてほしいです。木っ端は、積んでも、並べても、投げても楽しい、good！な教材ですね。

研修に参加してくださった方々から、毎回このような温かい感想をいただいています。ありがとうございます。土曜日の貴重な時間を割いて、遠方からも来てくださったみなさんに、楽しんでいただきながら少しでもお役に立てるような研修をと毎回考えています。みなさんの温かな感想が何よりの励みとなり、また次回はさらに楽しく、そしてみんなでいろいろと考えていけるような研修をと頭をひねっています。　時間の都合がつく方は、ぜひ一度顔を出してみてください。

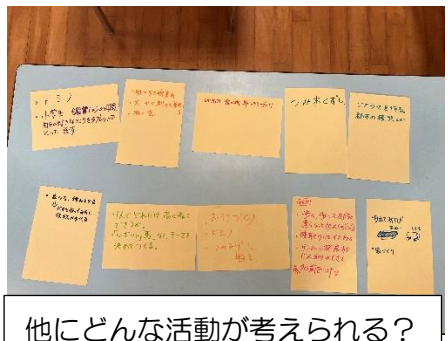
楽しい活動の後に



この活動の楽しさは？



この活動で何が育つの？



他にどんな活動が考えられる？

研修は、体験して終わりではなく、やってみて気が付いたことや感じたこと、考えたことなどをみんなで語り合う場が欲しいですよね。でも、みんなが自由に語り合うって、なかなか難しいのが現状だと思います。

なかなか自分の考えや思いを声に出せない人、ついつい遠慮してしまう人、逆に自分の言いたいことばかりとうとうと話し続ける人・・・などなど。そこで、今回このようなやり方を試みてみました。上記のような簡単な問いかけをして、1～2分程度の時間で、紙に大きく自分の考えや思ったことなどを書き出します。それを「せーの！」で一斉に机の上に出します。それぞれの人の考えが一度に見られるので、それを見ながらみんなが自由に発言していきます。書かれていることに質問してもいいし、共感できることに対して自分の考えを言ってもいいし、へえ～！こんな考え方もあるんだと感心することもあるでしょう。

結構もりあがるし、楽しいし、認められると嬉しくもなりますよ。　（宮川　友二朗）